

つながりの ある授業

体育科「マット あそび」

なりきったり、イメージをもったりして主体的に活動する 1年生 6月

単元目標

マット遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、いろいろな方向への転がり、手で支えての体の保持や回転をすることを身に付けることができるようにする。

ねらい

マット遊びに進んで取り組み、様々な体の動かし方を工夫するとともに、友達と一緒に取り組む。

幼児期とのつながり

見立てる、なりきる、めあてがもてるなど、子どものやってみたいという思いが生まれるような環境設定

実践内容



マットから落ちないように上手に回れるかな。

マットの端に草むらに見立てたマーカーを置き、マットから落ちないように



どの動物までいけたかな。

壁にアザラシやキリンの絵を貼り、どの動物までいけるか、挑戦



ぴょんぴょんうさぎみたいに跳び越せるかな。

次はいもむしに変身

同じ場でもウサギやイモムシなどになりきることで「跳ぶ」「這う」などの違う動きを楽しむ。自分でゴムの高さを変えながら挑戦することができ、動きのバリエーションが豊富になる。



踏切板をマットの下に敷き坂道にすると転がりがたくなり、後ろ回りもやってみよう...

砂利に足が当たらないように回るぞ。



玉入れの玉を砂利に見立てて 並べ方を考えて置き、跳び越したり、側転したり、様々な遊びを楽しむ。

授業を振り返って

多くの子どもたちが経験したことのある動きを、マットの置き方や場を工夫することで、就学前施設でもしたことのある遊びとして、安心して取り組むことができた。この時期の発達の姿として、「見立てる」「なりきる」「めあてをもつ」などの環境構成の工夫により、挑戦しにくい子どもも、「これならできるかな。やってみようかな」という思いから活動しやすく、様々な体の動きが引き出された。また、自然と子どもたちが誘い合ったり、教え合ったりしながら活動する様子も見られた。